

第一回中間報告

期間：渡英日~クリスマス休暇(9月-12月)

国際ロータリー第 2710 地区

2024-2025 年度 グローバル補助金奨学生

近森 由衣

1. 報告書提出日：2025年2月9日 第1回報告

2. 基本情報

氏名：近森 由衣

派遣クラブ・カウンセラー：福山北ロータリークラブ、坂田 光徳 さま

受入クラブ・カウンセラー：Rotary Cheadle Royal, Mr. Patrick Tyrrell

教育機関：マンチェスター大学 (University of Manchester)

専攻分野：MSc Development Economics and Policy

3. 学業面での成果

9月11日にイギリス・マンチェスターへ到着し、16日からの1週間は Welcome Week、23日から講義がスタートしました。

Welcome Weekでは、まずカリキュラムの説明がありました。カリキュラムは、各モジュール12週間の授業で構成されており、必修科目3つ(各15単位)、選択必修科目1つ(15単位)、選択科目4つ(各15単位)、そして修士論文(60単位)の合計180単位を履修します。私のコースでは Welcome Week の期間中に“Pre-sessional”と呼ばれる数学の講義が行われ、予備知識の確認がありました。この講義では、学部時代に学んだ数学やマクロ経済学の復習をします。さらに、Welcome Week 中にはクラスの交流会や Social (日本でいうサークル活動) などのイベントも開催されました。寮や大学では、2週間にわたり、毎日のようにピザやドリンクが振る舞われる交流イベントが開催されました。これらのイベントに積極的に参加したことで、早い段階で友人やコネクションを作ることができました。私は Japanese Society が主催する就職活動に関する情報交換会や説明会に定期的に参加しています。

到着して2週間後には、本格的に講義がスタートしました。授業では、経済の理論を中心に実際のデータを用いた分析や、先行研究の論文のリーディングを行っています。各科目の授業は、毎週講義(レクチャー)と少人数ディスカッション(チュートリアル)がそれぞれ2時間ずつ行われます。1学期目に履修した科目は以下の4つです：

1. Development Macroeconomics (開発マクロ経済学)・必修科目

開発途上国の経済安定化政策や経済成長理論について学びました。理論を学ぶだけでなく、実際のデータを用いて理解を深める機会もあり、さらに、国際機関や政府機関

で働く方々によるプロジェクト紹介や研究発表、博士課程の学生による論文発表を聞く講義もありました。

2. Econometric Method for Development (計量経済学)・必修科目

開発経済学におけるデータ分析の課題を理解し、統計ソフト R や STATA を用いた計量経済学の手法を学びました。レクチャーで学んだ理論を、チュートリアルで実際のデータを用いて分析し、自ら設計する演習を行いました。分析手法を理解しているつもりでも、実際のデータを前にすると適切な手法を選ぶことが難しく、今後はこれらの課題を意識し、より実践的なスキルを身につけたいと考えています。

3. Economics Analysis of the Public Sector (公共経済学)・選択科目

開発途上国の公共部門の役割や政策（税制、財政支出、教育、福祉、民営化など）について、政府・市場・家庭の相互作用を踏まえながら、理論と実例をもとに学びました。授業では「日本ではどうか？」と頻繁に質問され、日本の政策について発表する機会も多くありました。

4. International Finance for Development (国際開発金融)・選択科目

開発途上国の経済成長と資金フロー（政府債務、外国直接投資、海外送金、援助など）の特性や影響について、理論・実証・歴史的観点から学びました。また、「インドにおける外部金融と経済発展」をテーマに、初めてのグループプレゼンテーションを実施しました。メンバーの専門分野が異なる中、互いの得意不得意を補うことを意識して取り組んだ結果、最高評価をいただくことができました。

1 学期目では幅広い分野の講義を履修し、2 学期目で興味のある分野を深掘りします。1 学期目は、選択科目として金融や公共経済学など、初めて学ぶ分野にも挑戦しました。

コースメイトは約 50 名で、中国出身の学生が多いですが、アフリカや中東を含む世界各地から多様な背景を持つ学生が集まっています。特に、職務経験を持つ学生が多く、彼らの鋭い質問や意見からは多くの学びを得ています。コースには日本人学生が私一人のため、「なぜ開発経済を学びたいのか?」、「先進国である日本の政策や歴史についてどう考えているか?」といった質問をよく受けます。英語での予習やディスカッション、課題は難しいですが、日々とても充実しています。

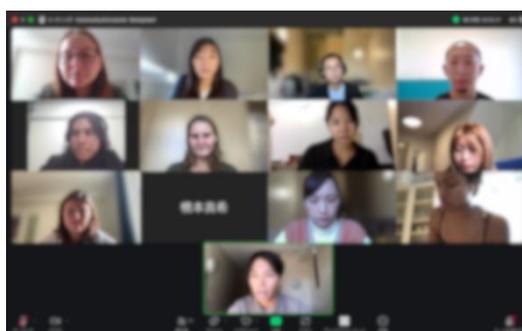
4. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

マンチェスターに到着した当日は、現地時間の朝 6:45 という早朝にもかかわらず、カウンセラーの Patrick さんが空港まで迎えに来てくださいました。長時間の移動で疲れているだろうと、数日分の食料や日用品まで用意してくださり、大変助かりました。

9月からは月に一度のペースで例会に参加しています。1回目はホストクラブである Cheadle Royal のディナー会に招待され、クラブの皆さまとお会いしました。イギリスやマンチェスター、チードルの歴史や街の様子についてさまざまなお話を伺い、とても楽しい時間を過ごしました。2回目は地区のディナーに招待され、自己紹介を兼ねたプレゼンテーションの機会をいただきました。自身の出身地や現在学んでいることについて、約20分間お話ししました。この場では、マンチェスター大学の卒業生や、博士課程の一部を東京大学で研究していた方とも交流することができました。今後の予定としては、2月には、マンチェスターの Stockport クラブの例会に招待され、約30分間のプレゼンテーションを行う予定です。



また、10月には Great Britain and Ireland に留学する奨学生とのオンライン交流会があり、参加しました。この機会を通じて、他の奨学生と連絡先や情報を交換できただけでなく、元奨学生の方からの体験談やロータリーの活動についての説明も伺うことができました。元奨学生の方々は、奨学生同士のつながりの大切さを何度も強調されていました。今後もロータリーでのつながりを積極的に活用していきたいです。



5. 直面した課題、問題点

到着してすぐに直面した問題は体調不良でした。到着から1週間後に40度近い高熱が出ました。イギリスでは、国民保健サービス（NHS）で診察を受けるには、まずGP（General Practitioner）と呼ばれる、かかりつけ医に登録する必要があります。しかし、到着したばかりで登録が間に合わず、持参していた薬で対処しました。幸い数日で回復し

ましたが、寮の友人たちの助けや、Patrick さんが用意してくれた食料のおかげで乗り越えることができ、本当に感謝しています。また、11月ごろの中間課題期間にも1週間ほど発熱しました。学部スタッフに相談したところ、万が一間に合わなかった場合のために、課題の提出期限を延長していただきました。大学の制度がしっかり整っており安心しました。イギリスの医療制度は日本と異なり、救急外来を受診した友人は9時間も待たされたことや風邪では診察を受けられないこともあると聞きました。生活習慣に気を配り、できるだけ体調を崩さないように心がけたいです。

留学生活の中で、特に学業面で難しいと感じているのは、膨大な課題の量とディスカッションへの参加です。毎週、大量のリーディングやワークが課され、講義一週目から効率的かつ計画的に学習を進める必要性を痛感しました。さらに、講義では先生がクラスに質問を投げかけ、意見のある学生が手を挙げて答える場面が多く、ただ理解するだけでなく、自分の考えを的確に表現する力が求められます。しかし、私は発言に対して自信を持って、躊躇してしまうことが多くありました。特に、「日本ではどうなのか？」と質問された際には、適切な単語がすぐに出てこなかったり、知識不足を痛感したりすることもあり、悔しい思いをすることがあります。このような課題を克服するために、友人を誘って一緒に課題に取り組み、わからない部分を教え合ったり、意見交換をしたりするなどの工夫をしながら、少しずつ改善を図っています。まだ課題は多いですが、後期ではさらに積極的にディスカッションに参加し、自信を持って発言できるよう努めていきたいと考えています。

6. 今後の課題、目標

二学期は講義に加え、就職活動も本格的に始める予定です。まずは、2月に開催されるロンドンキャリアフォーラムに向けた準備を進めていきます。就職活動の準備期間は期末試験や課題の提出期間と重なるうえ、二学期の講義はより発展的な内容となり、課題の量や授業数も増えるため、これまで以上に効率的な学習が必要だと感じています。前期の反省を生かし、学業と就職活動のバランスを取りながら、計画的に取り組んでいきたいです。

7. その他の特記事項

◇ 街の様子

産業革命の街として知られるマンチェスターでは、勤勉な労働者の象徴として「働き蜂」が街のシンボルとなっています。ゴミ箱やお店の壁など、街の至るところに蜂のマークが描かれており、とても可愛いです。街全体には赤レンガ調の建物が多く立ち並び、天気の良い日には散歩を楽しんでいます。また、マンチェスターはマンチェスター・ユナイテッドとマンチェスター・シティの2つのフットボールチームの本拠地としても有名です。12月には大学のイベントで、女子サッカー日本代表選手が活躍するマンチェスター・

シティの試合を観戦しました。

留学前は治安や食事面に不安がありましたが、実際に生活してみると全く問題ありません。寮では自炊をしていますが、日本食の食材は中華系や韓国系のスーパーで簡単に手に入るため、食生活にも困りません。



◇ 学校の様子

キャンパスはとても綺麗で、歩いているだけでも楽しいです。図書館や自習室、カフェなどの設備も充実しており、授業のない日や休日でも学校に行って課題や勉強に取り組んでいます。



◇ 寮の様子

寮での生活はとても楽しく、定期的に友人と集まって食事をする機会があります。先日はクリスマスプレゼント交換を行い、大いに盛り上がりました。また、文化交流も盛んで、アメリカやカナダから来た寮生はサンクスギビング、中国や台湾の友人は旧正月のイベントを開催してくれました。私も日本料理パーティを企画し、手巻き寿司やお好み焼

き、カレーをみんなで作って楽しみました。左の写真は、手巻き寿司の作り方を説明している様子です。



国際ロータリー第 2710 地区、福山北ロータリークラブ、ロータリー財団の皆様には、このような貴重な機会を頂き、心より感謝申し上げます。また、Cheadle Royal ロータリークラブをはじめとするマンチェスターのロータリークラブの皆様には、温かく迎え入れ、支えていただいているおかげで、安心して学業に励むことができます。後期も、これまでの学びをさらに深めるとともに、新たな挑戦を積極的に続けてまいります。